

農林水産大臣賞（被害防止部門（団体））

地域住民が主体となり「防除」「追い払い」「捕獲」を3本柱とする地域ぐるみのサル対策として、おじろ用心棒の設置、煙火による組織的な追い払い、発信機による群れ管理、ICT捕獲柵による捕獲を実施。獣害対策を地域づくりの手段として捉え、「守るべき農地」を明確化し、農事組合法人による耕作面積を6haから20ha以上に拡大。

かわい
川合地域農場づくり協議会

とさ ゆうじ
(代表：土佐 祐司)

主な取組

京都府福知山市

- サル位置情報共有システム「サルイチ」の導入により地域住民に群れの位置情報を共有し、過去の行動パターンから進路を予想することで、地域全体での追い払いを実施。また、判明した群れのルート上に遠隔で監視・捕獲が可能なICT捕獲柵「ロボットまるみえホカクン」を設置。群れが捕獲柵に近づいてくる時期を把握し、集中的な誘引を実施することで、捕獲効率が向上。
- 設置済のおじろ用心棒に対して、電柵電圧遠隔管理システム「エフモスジュニア」を導入。電牧器本体の故障、雑草等による漏電、倒木等による断線やバッテリー切れなどの異常事態に対して、遠隔で確認することで、電気柵の防除効果を高い状態で維持することが可能となった。
- 地域内の廃校となった小学校をキャンプ場として活用し、里山体験コンテンツとして「柿のもぎ取り体験」を実施し、人手不足等で実施できなくなった放任果樹の除去を行い獣害対策につなげている。

【被害金額（川合地区）】

約400千円（令和元年度）→約27千円（令和4年度）

農林水産大臣賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

ヤクシカによる農林業被害、自然環境及び景観への影響の問題を解決し、ヤクシカを食する食文化の定着や地域の活性化を目指し、平成29年に「屋久島ジビエ加工センター」を整備。島内外の飲食店等との連携、学校給食への提供など、屋久島のシカ肉の需要拡大及び認知度向上に貢献。

株式会社屋久鹿ジビエ王国

（代表取締役：福原 勝利）

主な取組

鹿児島県熊毛郡屋久島町

- 安心・安全なシカ肉の提供を目指し、衛生管理基準及びカットチャートによる流通規格の遵守、適切なラベル表示によりトレーサビリティの確保等に取り組むことを目的に、国産ジビエ認証を取得（令和3年2月）。
- 地元猟友会の協力のもと、捕獲から施設への搬入時間を止め刺し後、2時間以内と定め、徹底した個体判別と衛生管理のもと、高品質なジビエを提供。
- 厳しい衛生管理のもと、自社企画加工製品の製造や、ペットフードの企画開発販売にも着手。一頭まるごと、あるいは頭だけやスペアリブなどを動物園へ提供することで残渣処理量を削減。
- 全国への求人により屋久島町への移住と雇用の創出に貢献。初心者に対し、工場責任者の指導により、解体から精肉、加工へと段階を踏んで技術向上に取り組む。
- シカ肉の魅力を発信するとともに、卒業後の雇用につなげるため、島内の高校でシカ肉を通じた食肉文化の歴史など学ぶ授業を継続的に実施。

【シカによる被害金額（屋久島町）】

約24,232千円（活動開始前：平成24年度）→約1,944千円（令和4年度）

農村振興局長賞（被害防止部門（個人））

行政職員として「下北半島鳥獣被害対策市町村等連絡会議」の設立に携わり、広域的な被害対策の実施体制を主導。退職後は「NPO北限の野生動物保護管理センター」「北限のニホンザルネットワーク」を立ち上げ、ニホンザルの生息状況調査等を継続的に行っており、下北地域における被害対策に精力的に取り組み、被害額の大幅な低減に貢献。

やまざき

山崎

ひではる

秀春

主な取組

青森県むつ市

- 「下北半島鳥獣被害対策市町村等連絡会議」では、モンキードッグとハンドラー兼ニホンザル保護管理専門員の育成、各市町村への配置により、迅速かつ効果的な追い上げ・追い払いを実施するための体制整備に貢献。
- 山崎氏の指導を受けた西北地域の深浦町では、テレメトリ発信器を活用したニホンザルの群れ数、生息頭数、行動域の調査とGISを活用した調査結果の地図化により、ニホンザルが頻繁に利用する場所を特定し、群れの全頭捕獲を実施した結果、加害群の除去に成功。
- 鳥獣被害対策を継続的に取り組むことができる鳥獣保護管理専門員の育成と下北地域各市町村への配置に尽力。鳥獣被害対策実施隊等を対象とした研修会に積極的に協力し、ニホンザルの生態や生息域、被害対策等について教授することで、ニホンザル対策の知識・技術の向上に貢献。

【サルによる被害金額（下北地域）】

約420万円（活動開始時：平成19年度）→約64万円（令和4年度）

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

平成20年に三重県伊賀市の比自岐地区住民自治協議会内に比自岐地区獣害対策協議会が設立され、3集落の全世帯が一体となって定期的な侵入防止柵の点検と補修作業を行うほか、ICTを活用した地域一体的な活動を維持するため、研修会や機関誌による情報発信により知識を浸透させ、住民自らが集落を守る意識を醸成。

ひ じ き 比自岐地区獣害対策協議会

（会長：森本 もりもと 壽一 としかず）

主な取組

三重県伊賀市

- 地域住民の連携による被害対策として、侵入防止柵の維持管理は、3集落全世帯参加（144戸）の当番制で実施。点検結果をとりまとめ、市の補助金を活用して補修資材を購入。また、シカ用の大型捕獲檻を2台設置しており、当番制で草刈りやエサやりなどの管理を行い、地区外の狩猟者の協力のもと捕獲。
- サル対策として、平成26年から27年に、三重県農業研究所の実証試験に協力し、ICT（遠隔操作システム）を活用した大型捕獲檻で加害レベルの高い群れの個体数調整に成功し、被害はほぼ皆無。
- 平成29年の研究事業により大型捕獲檻とICTの活用によるシカの捕獲を開始。取組を継続し、地域住民が連携しながら当番制でエサを管理するための体制を確立。市民センター職員が遠隔操作システムによりシカ誘引状況を確認し、位置を指示することで、シカ誘引状況に応じた給餌を実施。

【被害金額（比自岐地区内）】

約6,500千円（活動開始時：平成24年度）→約141千円（令和4年度）

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

日野郡3町の協議会からなる取組で、集落研修会の開催、地域に適した侵入防止柵の普及、集落ぐるみの対策体制構築を推進した結果、被害は減少。長期にわたり広報誌による情報発信を行うほか、捕獲通報システムやドローン等ICT機器を積極的に導入するなど捕獲技術の高度化にも取り組んでいる。

ひの 日野郡鳥獣被害対策協議会実施隊

（会長：中村^{なかむら} 英明^{ひであき}）

主な取組

鳥取県日野郡日野町

- 侵入防止柵の適切な設置・管理を目的として集落への基本講習を実施。加害鳥獣の特性や具体的な対策方法を理解しやすくかつ復習できる資料を作成・配付。また、基本講習後に現地踏査を行い、施工指導も含め最低3回の指導を行うことで、実施隊と住民が連携して適切に侵入防止柵を設置できるような体制を構築。
- 地域住民から要請に応じて、被害住民や近隣住民に対する井戸端講習等、正しい知識と対策手法の伝達により、日々、集落における指導者等の育成の取組を実施。
- 郡内における普及啓発活動として、活動開始当初から10年間に渡り3町の広報誌に執筆しており、季節に応じた被害対策技術情報を地域住民へ継続的に発信。
- 被害対策時の安全確保と、今後の過疎高齢化に向けた少数精鋭の捕獲体制を構築するため、「ICTによる遠隔監視捕獲システム」、「加害獣の侵入位置・移動経路を確認するためのドローン」及び「わなの見回り労力の軽減のための長距離無線式捕獲通報システム」を導入し、捕獲技術を高度化。

【被害金額（日野郡3町）】

約7,753千円（活動開始前：平成26年度）→約3,894千円（令和4年度）

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（個人））

ハンター歴50年の獣類捕獲・解体技術を生かし、平成21年度に「富士河口湖町ジビエ食肉加工施設」の施設長に就任するとともに、町内猟友会に迅速な個体搬入と繊細な前処理を求めるなど徹底した指導により、高品質なシカ肉を提供。

たきぐち

まさひろ

滝口 雅博

みなみつる

ふじかわぐちこ

主な取組

山梨県南都留郡富士河口湖町

- 町内7地区の猟友会と連携し、迅速な搬入が可能な体制を整備。また、高品質なジビエ提供に欠かせない搬入前の血抜き処理について、猟友会会員への指導などにより丁寧かつ繊細な前処理が行われたシカの搬入を実現。また、会員への捕獲方法の指導により狩猟技術の向上が図られ、捕獲頭数の増加に貢献。
- 滝口氏が施設長を務める加工施設では、平成29年10月に「やまなしジビエ食肉処理認定施設」の指定を受けており、野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針（ガイドライン）及び山梨県のシカ肉の衛生及び品質の確保に関するガイドライン遵守のほか、独自の取組として、搬入時のシカの体温計測を実施。これにより捕獲から止め刺し、搬入までの時間を推定することで、品質が著しく低下した個体の判別が可能となり、当該施設におけるジビエ加工品の品質向上を図っている。
- 他の処理加工施設の職員や、新たに加工を始めたい未経験者などに対しても、町内外を問わず丁寧な指導を行うとともに、やまなしジビエ認定施設へのシカ搬入数の増加を目的とした狩猟者向けDVDを作成し、普及啓発活動を実施。

【シカの捕獲頭数（うち加工施設処理数）（富士河口湖町）】

110頭(34頭)（活動開始時：平成21年度）→500頭(214頭)（令和4年度）

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

高齢狩猟者の負担軽減や若手狩猟者の確保のため、鳥獣食肉解体加工施設を開設し、福山市を中心に備後圏域※の地域資源として、捕獲鳥獣のジビエ活用を促進し販売先の拡大に注力するとともに、捕獲個体の買取り・引取り、運搬など、狩猟者へのサポートを実施。

株式会社B I N G O

（代表取締役：前田 諭志）

主な取組

広島県神石郡神石高原町

- 備後圏域で193名の狩猟者が会員となっており、捕獲後に会員からの連絡により、冷凍車で現地へ向かい、捕獲個体の止め刺しや搬出等の代行を実施。
- 野生鳥獣肉の衛生管理に関するガイドラインを厳守し、トレーサビリティを確保するとともに、精肉の細菌検査、施設内消毒を実施。
- 精肉（食肉、ペットフード）、骨（ペットフード）、革（革加工業者への販売）、内臓（一部食肉、ペットフード）は捨てることなく有効活用することで、収益の確保、廃棄の負担軽減につながっている。
- SNS等でジビエ処理施設の開業までのプロセスや開業後の活動などの情報発信を行うとともに、開業予定の視察者の受入れを行っており、捕獲方法、解体指導、精肉加工と製品に至るまでの行程の全てをオープンにすることで視察者の理解を深め、開業までのサポートや開業後の販路共有を行うなど、施設間での情報交換を実施。

【イノシシの利用頭数（施設での処理頭数）】

344頭（令和2年度）→785頭（令和4年度）

※備後圏域…広島県三原市・尾道市・福山市（連携中枢都市）・府中市・世羅町・神石高原町、岡山県笠岡市・井原市の6市2町から構成

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

令和5年度に全国初となる狩猟から解体、加工、販売までジビエが丸ごと学べる「日本ジビエアカデミー」を設立し、全国からの視察受け入れやメディア出演等を行い、全国的なジビエの普及促進や利活用に係る担い手育成に広く貢献。

有限会社サンセイ・宇佐ジビエファクトリー

（代表取締役：山末^{やますえ} 成司^{せいじ}）

主な取組

大分県宇佐市

- 平成30年にジビエの処理加工業を開始し、令和元年に国産ジビエ認証を取得し、さらに独自基準により、搬入個体の菌検査やpH値測定などジビエの衛生管理に取り組んでいる。
- 衛生管理と品質重視のため独自の冷蔵システムを導入し、冷蔵庫と同じ温度帯で作業できるよう剥被室、内臓摘出室、熟成室、カット室は全て低温度での制御が可能。さらに鉄砲弾残滓を取り除くための金属探知機、加工工程には品質保持のため瞬間冷凍機を導入。
- 「日本ジビエアカデミー」では、既存施設や、これから処理場を開業する者を対象に講習を実施しており、衛生管理、栄養学や販売方法について座学や実技を通じて学ぶことができ、人材育成に貢献。
- 小学校の社会見学や高校生、大学生のインターンシップ等を受け入れ、鳥獣被害状況や被害対策をはじめ、ジビエの有効活用とサステナブルな活動について普及啓発を実施。また、宇佐市をはじめ、他市にも学校給食への供給を行うなど食育活動を実施。

【捕獲鳥獣利活用率（大分県北部地域）】

8%（令和元年度）→19%（令和4年度）